

特定非営利活動法人アサザ基金
第 13 期（2011 年度）事業報告書

2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

第 13 期（2011 年度）事業報告

—目 次—

| | |
|---------------------------|-------|
| 霞ヶ浦の再生事業 | 3-5 |
| 環境教育事業 | 5-7 |
| 水源地保全事業 | 7-12 |
| 地域循環型社会構築に関わる事業 | 12-14 |
| 複数の事業にかかわる助成 | 14-15 |
| その他の事業 | 16 |
| アサザプロジェクトに関する講演、発表、視察、展示等 | 17-18 |
| アサザプロジェクトに関する公表成果、報道等 | 19-20 |
| 第 13 期事業報告書 | |

アサザプロジェクトへの参加人数

2011/4~2012/3

| | |
|---------|---------|
| 環境教育事業 | 10,543 |
| 水源地保全事業 | 1,971 |
| その他 | 1,260 |
| 計 | 13,774名 |

1995 年発足から、アサザプロジェクトへの参加者数は延べ 229,810 名となりました。

アサザプロジェクト第13期事業報告

2011年度は3月11日に発生した東日本大震災と福島第1原子力発電所事故による放射能汚染問題で、水源地保全事業でのイベントが中止されたり、外来魚の水揚げが出来なくなるなどアサザプロジェクトの活動にも少なからず影響がでました。また、霞ヶ浦における放射性物質のモニタリング調査を開始し、近隣の研究機関や市民団体、生協や農業団体などにも連携を呼びかけ、新しい公共の体制作りも視野にいれて進めました。

牛久市と協働で進めてきた「廃食用油バイオディーゼル燃料化事業」と「緊急雇用対策としての谷津田再生事業」は2011年3月で3年間の委託期間終了となりましたが、先進的な事例として高い評価をいただきました。2月には念願の収納スペースの広い事務所に転居しましたので今後の事務所機能の充実が期待されます。

2011年4月から2012年3月までにのべ13,774名がアサザプロジェクトの活動に参加しました。

● 湖の再生事業

アサザ基金が様々な主体と協働で行ってきた湖の再生事業は、学校ビオトープを利用した環境教育、アサザの系統保存と水生植物保護、市民参加による水性植物の植付け、常陸川水門（逆水門）の柔軟運用等の政策提言、放射能汚染に関するモニタリング等、いずれも湖の再生に係るアサザプロジェクトのネットワークを活かした象徴的な事業です。流域の他の事業との成果がここに反映され、相乗的な効果を生むことで広大な霞ヶ浦の再生が期待されます。

○ 植生帯復元地区への植付け

霞ヶ浦・北浦に造成された11ヶ所の浅瀬等を利用し、湖岸植生帯の再生を目指して、アサザ、ヨシ、マコモ等の植付けを行いました。ビオトープから苗の株分けや、アサザやヨシ、マコモなど植生帯復元地区へ植付ける苗の準備や植付けの指導を行い、この活動を4地区（境島・木原・浜・大船津）で11回実施し、小学校の子どもたちや地域の方々、企業の方々がのべ330名が参加しました。植え付けたアサザをはじめとする水草の株数は481株となりました。

豊郷小学校（7/12 大船津 25株 20名 大船津株）
利根コカ・コーラ公募市民（8/20 木原 30株 25名 堂崎鼻株）
損保ジャパン（8/28 木原 100株 35名 堂崎鼻株）
ツムラ（8/30 境島 65株 25名 麻生株）
土浦小学校（9/6 木原 60株 131名 根田株）
納場保育園（9/14 根田 35株 33名 根田株）
キャノンマーケティングジャパン（9/17 木原 26株 18名 麻生株）
新宿カッパ村（9/20 木原 35株 15名 堂崎鼻株）
損保ジャパンCSOラーニング生（9/24 木原 30株 14名 堂崎鼻株）

◎ 植え付け実施のためのバス移動については、三井物産環境基金、公益信託大成建設自然歴史環境基金、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会「NFD one leaf fund」より助成をいただき実施しました。

・ アサザの植付け会を里親や一般市民に呼びかけ、植生帯復元事業と連携して実施しました。（アサザ基金主催）

| 実施日 | 行事名 | 場 所 | 参加者 | アサザ株由来 | 植付け株数 |
|------|--------|---------|-----|--------|-------|
| 7/18 | 植付け会 | 行方市 浜 | 12名 | 堂崎鼻株 | 40株 |
| 8/27 | 北浦植え付け | 鹿嶋市 大船津 | 2名 | 大船津株 | 35株 |

- ・ アサザのお花見会を里親や一般市民に呼びかけ、実施しました。(アサザ基金主催)

| 実施日 | 行事名 | 参加者 | 備考 |
|-------|------------|-----|----------------------|
| 10/2 | アサザのお花見会 | 30名 | 木原・麻生アサザ群落 講義 活動現場見学 |
| 10/10 | アサザのお花見会追加 | 4名 | 連絡ミスで出席出来なかった方 |

- ◎ エコーいばらき環境保全基金から、アサザの苗育成費、植付会・お花見会の開催費として15万円の助成をいただきました。

○ アサザの系統保存と里親

国交省霞ヶ浦河川事務所(潮来市)、(独)水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所(稲敷市)および101ヶ所の学校ビオトープでアサザの系統保存を継続しています。また、主旨に賛同した学校や団体、企業でも育成に協力していただきました。個人のアサザの里親制度は、HP等による募集の他アサザの植付会やお花見会の参加者へも呼びかけ、今年度は新規に10名(合計24株)の方にご登録いただきました。

○ 植栽地及び水源地の生物調査

霞ヶ浦の復元地区や水源地の谷津田再生現場では、定期的に生物調査を実施しました。また、アサザの群落調査も行いました。

○ 学校ビオトープの維持管理

流域内のビオトープを不定期訪問し、メンテナンスや管理のアドバイスをしました。2011年度学校ビオトープメンテナンス実施は30校、ビオトープ再造成は5校でした。公益信託 大成建設自然・歴史環境基金から900,000円の助成をいただき、「100年後トキの舞う霞ヶ浦」の実現にむけた学校ビオトープネットワークの構築というテーマに基づき、流域内での学校3校(石岡市立関川小学校、鹿嶋市立大同西小学校、潮来市立延方幼稚園)でビオトープ造成を含めた年間環境教育プログラムを実施しました。これにより、流域内での学校ビオトープ数は101校となりました。

○ 水郷トンボ公園の維持管理

3月11日の東日本大震災の影響で、トンボ公園も大きな被害を受けたため、平成11年度の活動は事実上の休眠状態となりました。平成10年の開園以来、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会が、潮来市の委託を受け年間を通じた維持管理を行ってきましたが、メンバーの高齢化もあり今後は、復旧作業も含め全面的にアサザ基金に維持管理をお願いしたいとの申し出を受けました。

12月10日に水路の整備や池の水草除去作業、枝きりなどを職員総出で行いました。

○ 駅ビオトープの維持管理

JR常磐線高浜駅、石岡駅の駅ビオトープは、東日本大震災の影響で存続未定となりました。

○ 霞ヶ浦・北浦の放射能汚染対策事業

福島第一原発の事故により、環境中に放出された放射性物質が地表から、56本の流入河川へと入り、時間の経過とともに霞ヶ浦・北浦へ流入することが懸念されます。多くの放射性物質はまだ、湖に流れ込む前の小規模な河川の底に堆積しているとみられます。私たちは市民団体や生協、行政等に協力を呼びかけ、除染等の対策を進めるために政策提言やモニタリングを実施しました。

○ 霞ヶ浦の再生に向けた政策提言

「常陸川水門の柔軟運用」が2010年から2011年にかけて土浦市議会(6/22)、茨城県市議会議長会(11/2)、東海村議会(12/15)、つくば市議会(12/22)、阿見町議会(3/24)で全会一致で採択されるなどの動きを受け、7月10日土浦市内で「うなぎサミット」

を霞ヶ浦の再生を考える会（助川弘之代表）と共催で開催しました。その後は福島第一原発事故後の放射能汚染問題への対応を求めて、茨城県や土浦市、霞ヶ浦河川事務所、流域の研究機関等に除染やモニタリングへの協力や連携体制の構築を呼びかけました。

● 環境教育事業

新しい社会を築いていくためには、新鮮な感性と豊かな創造力、行動力を持つ人材の育成が不可欠です。アサザプロジェクトの環境学習は、単なる環境知識の普及に留まらず、子ども達の視野を広げ新たな発想へと導く学習を目指しています。環境学習を支援する講師派遣事業「出前授業」は、小中学校の総合学習の時間等を活用して実施しました。

牛久市内では、牛久市から委託を受け市内の全小中学校に年間を通して学習プログラムを提供しました。霞ヶ浦流域の学校や秋田県、北九州市、三重県、沖縄県では、周辺にある水辺での動植物の観察やビオトープの役割、生き物の体のつくりや住処を学び、生き物の目になってどうしたら人や生き物がすみやすくなるのか、子供たちと一緒に考えまちづくりや地域ブランドづくりなどそれぞれの地域にあった多種多様な学習プログラムを提供しました。NEC キャピタルソリューションの「わくわくこどもの池プロジェクト」や「シャープと気象キャスターネットワークとの協働授業」も継続しました。

2011年度は全体で10,543名の児童生徒が参加しました。

○ 霞ヶ浦流域内での環境学習

牛久市内の小中学校を除いた霞ヶ浦流域内の小中学校では、総合学習の時間を活用した環境教育に1,486名の児童が参加しました。活動資金は三井物産環境基金と霞ヶ浦ゆめ基金から充てました。

○ 学校ビオトープから始まるまちづくり事業

（牛久市教育委員会等との協働事業 2004年度から8年目）

牛久市内全13校の総合的な学習の時間において、「牛久市の自然特性の理解」「学区ごとの自然環境データの収集」を通して、「生物（他者）の視点になっての地域資源探し」を行いました。自分のまちのどこが生物と共存していく上で障害となっているのか、地域の資源を生かしてどう改善してゆけるのかを学習し、最終的には「あたらしい牛久のまち」を具体的に提案し、施策への反映を目指しました。

現在は、総合的な学習のあり方や社会参加の意欲を育てる学習のあり方が問われていますが、子ども達の創造力・総合力を伸ばし、教科学習と連動するプログラムづくりに務めました。

1. 業務内容

- (1) まちづくり学習プログラムの作成と実施
- (2) 学校支援を目的とした実行委員会の定期的開催
- (3) 地域への学習成果発表の実施

2. 事業報告

- (1) 各学校の総合的な学習の時間において学習プログラムを実施しました。

延べ88回、参加総人数は6,762人でした。

- ・牛久小学校…学校ビオトープと学校の裏山『へび山』の野外観察・提案づくり
- ・牛久第二小学校…学校ビオトープの観察
- ・向台小学校…近くの谷津田の野外観察
- ・中根小学校…小野川・その周辺の田んぼにて野外観察
- ・神谷小学校…再生させた谷津田にて無農薬の米づくり（田植え、稲刈り、脱穀体験）、谷津田や上流・まちの野外観察・学区内の雨水対策についての提案づくり（市長、区長、議員、地域住民へ提案）
- ・岡田小学校…小野川の野外観察、提案づくり

- ・奥野小学校…学校のビオトープ観察
 - ・ひたち野うしく小学校…学区の野外観察とクールシティに向けた提案づくり
 - ・牛久第二中学校…牛久バイオマスタウン構想の推進役としての学習・提案・作業
 - ・牛久第三中学校…<科学部>牛久沼再生についての科学部の活動補佐
 - ・牛久南中学校…プールビオトープの観察、近くの谷津田（かっぱん田）野外観察と谷津田再生の提案づくり、せんべいブランド化
 - ・下根中学校…牛久バイオマスタウン構想の推進役としての学習・提案・作業
- (2) 実行委員会を2回実施し、情報共有、意見交換を図りました。
 2011年5月20日 第1回実行委員会（今年度計画について）
 2011年11月8日 第2回実行委員会（中間報告と課題解決について）
- (3) 地域へ学習成果を発表し、住民へのアピールを行いました。
 2012年2月4日「カップ大交流会（ビオトープからはじまるまちづくり事業報告会）」にて、市内小中学校の代表校4校（神谷小、岡田小、牛久二中、牛久三中）の代表児童生徒と、三重県大紀町立七保小学校児童、沖縄県宮古島市立狩俣小学校児童が初めて参加し、環境学習の成果を発表しました。意見交換の時間も設けられ、異なる地域で学習してきた子ども達同士や地域の方と交流ができました。
 牛久市教育委員会から事業委託費として935,550円をいただき活動費に当てました。

○ 秋田県における環境学習

（秋田地域振興局 2004年から・大仙地域振興局 2009年から協働事業）

八郎湖流域においては、2004年から継続して取り組んできた環境学習を地元NPOが引き継ぐことになり、アサザプロジェクトの出前授業は6月に4校を訪問、174名が参加しました。8月1日の「みんなが笑顔！未来の湖交流会 2011」では飯島がコーディネーターを務めました。大仙地区では6月と3月に計4回156名の児童が参加しました。

○ 「大潟村トンボ実態調査」 （大潟村農地・水・環境保全向上対策推会議受託 2010年5月～2011年3月 2007年度から2011年3月）

大潟村では、環境保全型農業が広く進められている場所です。アサザ基金では農法と自然環境との関係性を明らかにし、それを商品価値に付与する提言を行い、自然環境指標となるトンボの調査を2007年度から行ってきました。

秋田県大潟村の大潟村農地・水・環境保全向上対策会議より、「大潟村の環境状況把握のためのトンボ実態調査」業務を受託、実施しました。

この事業では生物多様性を指標にした農作物ブランドづくりを進めています。このような取り組みは、霞ヶ浦流域をはじめ、日本全国で取り組むことができるモデルとなります。業務委託費452,020円をトンボ実態調査費用に充てました。

○ 沖縄県、三重県における環境学習

沖縄県宮古島や沖縄本島では、環境保全型のサトウキビ栽培等をテーマに15時限授業を行い、238名が参加。三重県大紀町では、七保小の子ども達を中心に地域活性化と環境保全の一体化を目指す「お茶のブランド化」をテーマに14時限の授業で259名が参加し、キャンノンマーケティングジャパンからもご支援をいただきました。

○ 「わくわく子どもの池プロジェクト」

（NECキャピタルソリューション 2007年度から継続）

学校を地域ぐるみで支援し、子どもたちを育てる体制づくりをNECキャピタルソリューション(株)との協働ですすめました。墨田区や港区、北九州市などの小学校で環境教育プログ

ラムを提供、実践し、NECキャピタルソリューション(株)社員の社会貢献・社員ボランティア育成の一環として実施しました。ビオトープの造成にとどまらず、ビオトープ造成から始まるまちづくりを提案する学校が出てくるなど、事業の規模と内容がともに拡大されてきました。のべ21回の授業を実施し、1,037名の子供たちが参加しました。昨年度ビオトープを造成した小学校で、やってきた生きものを観察する授業も行いました。

東京都内を中心に飛び石状に事業が展開されていくことで、東京都内をつなぐ生きもののネットワークを構築することができます。生きもののネットワーク化事業の都市版といえます。ヒートアイランドなど都心に特有な様々な条件を含みながら、一つの取り組みで多くの事項に効果を波及していくことができる、アサザプロジェクトの特徴をよく表した事業です。「わくわくこどもの池PJ協働事業費」として1,376,457円の支援をいただきました。

環境教育プログラムを提供した小学校

- ① 北九州市立曾根東小学校 4年生
- ② 墨田区立東吾嬬小学校 4年生
- ③ 渋谷区立猿樂小学校 4年生
- ④ 港区立芝小学校 4年生
- ⑤ 港区立芝保育園年長

○ シャープ株式会社と気象キャスターネットワークとの協働による小学校環境教育 (シャープ株式会社受託 2007年度下期から継続)

シャープ株式会社とNPO法人気象キャスターネットワーク、アサザ基金の3者協働による全国の小学校を対象とした環境学習出前授業を下記10校(被災地3校を含む)で実施しました。シャープ(株)は「リサイクルや新エネルギー(太陽光発電)」をテーマに、気象キャスターネットワークは「地球温暖化問題」をアサザ基金は「生態系保護」の立場からそれぞれ1時間ずつ授業を行いました。合計で431名の子供たちが参加しました。シャープ(株)からは旅費と講師料として、441,700円をご支援いただきました。

実施校

| 都道府県 | 学校名 |
|------|-------------|
| 愛知県 | 名古屋市立白水小学校 |
| 東京都 | 板橋区立板橋第五小学校 |
| 北海道 | 札幌市立上野幌東小学校 |
| 宮城県 | 塩竈市立第二小学校 |
| 山口県 | 下関市立粟野小学校 |
| 愛知県 | 豊田市立東広瀬小学校 |
| 広島県 | 安芸高田市立可愛小学校 |
| 和歌山県 | 和歌山市立福島小学校 |
| 宮城県 | 名取市立高館小学校 |
| 宮城県 | 気仙沼市立九条小学校 |

● 水源地保全事業

○ NEC田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金

(NEC CSR・環境推進部委託)

NEC田んぼづくりプロジェクトは2004年に石岡市東田中で谷津田再生事業を開始しました。毎年大勢の社員ボランティアが参加して実績を積み、企業とNPO、地域の連携による環境保全活動として高い評価を得てきました。その成果をふまえ、2010年には牛久市上太田でも新たに同様の取組みを実施しています。

① 石岡市東田中の活動報告

1. 業務内容

- (1) NEC 社員及びその家族を対象にした自然体験型環境意識啓発プログラム計画立案
- (2) プログラムの事前準備及び当日運営
- (3) 谷津田の維持、管理
- (4) 谷津田の再生を評価する為の調査
- (5) その他関連・付帯する業務

2. 事業報告

2011 年度は以下の日程で事業を進行しました。

全社行事のイベント 6 回、達人コース全 14 回行ないました。

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 全社行事 | 田植え (5/21 100 名参加) |
| | 草取り (7/9 130 名参加) |
| | 稲刈り (10/15 90 名参加) |
| | 脱穀 (11/3 90 名参加) |
| | 新酒仕込み (東田中、上太田合同イベント 1/14 85 名参加) |
| | 新酒蔵出し (3/10 120 名参加) |
| 達人コース | 110 名参加 |

計 725 名

② 牛久市上太田地区の活動報告

上太田地区の谷津田はほぼ全域が耕作放棄地のため、水源地としての維持や利水／治水効果、さらには生態系の多様性が失われようとしています。この谷津田では再生前の現況調査から社員ボランティアに参加いただき、データを取りながら、谷津田を丸 1 つ再生することで「トキ舞う谷津田」の実現を目指します。

1. 業務内容

- (1) NEC 社員及びその家族を対象にした自然体験型環境意識啓発プログラム計画立案
- (2) プログラムの事前準備及び当日運営
- (3) 谷津田の維持、管理
- (4) 谷津田の再生を評価する為の調査
- (5) その他関連・付帯する業務

2. 事業報告

2011 年度は雨天中止となった「7/30 草取り+ホタル観賞イベント」を除く全 3 回のイベントと達人コースを 7 回実施しました。

| | |
|-------|-----------------------|
| 全社行事 | 田植え (5/14 実施 70 名参加) |
| | 稲刈り (10/22 実施 35 名参加) |
| | 脱穀 (11/12 実施 40 名参加) |
| 達人コース | 85 名参加 |

計 230 名

業務委託費 6,745,440 円を①と②の活動に充てました。

○ 三井物産谷津田再生プロジェクト

(三井物産(株)三井物産環境基金委託 2007 年から継続)

アサザ基金で行っている霞ヶ浦流域での自然再生事業と三井物産環境基金のボランティア活動が連動し、三井物産役職員とその家族を対象に、環境意識の向上と基金活動への参加意識醸成を目的に、米作りなど谷津田再生を通じた年間の自然体験プログラム「谷津田再生プロジェクト」を実施しました。

本事業地は牛久沼の水源地で、アサザプロジェクトの牛久沼再生への活動にもなっています。三井物産株式会社からは同時にプロジェクト助成もいただいております、その取り組みと連動し

ていくような展開を少しずつ図っていきます。年度初めにため池づくりと水田の改修を行った結果、ある程度水がたまるようになり、冬水田んぼにもできるようになりました。その結果もあって、今年度は多くの生きものを谷津田で見ることができました。

1. 業務内容

- (1) 三井物産役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) プログラムを実施する谷津田の借り上げ手配
- (3) 谷津田における維持管理、基盤整備、米作りの業務
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) 谷津田の再生を評価するための調査
- (6) 東日本大震災からの復興に関連する業務

2. 事業報告

2011年度は6回の個別プログラムを実施しました。

| | | |
|------|------------|------|
| 全社行事 | 田植え | 47名 |
| | 草取り① | 35名 |
| | 草取り② | 22名 |
| | 稲刈り | 45名 |
| | 酒仕込み・谷津田整備 | 38名 |
| | 蔵出し・谷津田整備 | 39名 |
| | 参加者合計 | 226名 |

業務委託費として、5,768,250円を醸造委託製造や水田管理、プログラム運営費用に充てました。

○ 損保ジャパン環境財団CSOラーニング生による水源地保全を目的とした循環型社会構築（通称：かっぱんだ）プロジェクト（2010年度から2年目）

損保ジャパン環境財団「CSOラーニング制度」ラーニング生を対象とした人材育成と、牛久沼水源地の保全や生物多様性保全を目的に、牛久沼の水源地である谷津田の再生やつながりを生み出す商品づくりに取り組んでいます。

今年度は、2011年度に復田した谷津田（牛久市遠山）にて初めてマンゲツモチを作付けし、収穫した米を使って小美玉市の大形屋商店にて霞ヶ浦のザザエビを入れたせんべいを作りました。せんべいのブランディングは牛久南中学校の学習と連携し、様々なつながりを表現するネーミングとラベルデザインを作成し地域の商店で販売しました。

活動費用としては損保ジャパン環境財団から協賛金810,130円ともち米の売り上げ金45,000円を合わせた855,130円を充てました。

1. 業務内容

- (1) ラーニング生による企画作成、マーケティングの支援・調整
- (2) ラーニング生と協力して行う農作業イベントの準備・調整・運営支援
- (3) 生物調査・植生調査

2. 事業報告

- (1) ラーニング生と協力して行う農作業イベントの実施
 - ・2011年5月21日 田植え 参加者33名
 - ・2011年7月20日 草取り① 参加者20名
 - ・2011年8月6日 草取り② 参加者3名（有志）
 - ・2011年10月16日 稲刈り 参加者27名
 - ・2011年10月25日 脱穀 参加者3名
 - ・2012年2月25日 収穫祭 参加者30名

○ UBS RICE Project UBS証券会社との協働事業
(UBS証券会社委託 2008年度から継続)

霞ヶ浦・北浦の水源地(谷津田)の荒廃はいまや、大きな社会問題になっています。霞ヶ浦・北浦の水質保全のためにも、霞ヶ浦・北浦流域の健全な生態系の維持のためにも、水源地の再生が急務の課題となっているなか、霞ヶ浦・北浦の水源地・谷津田をフィールドとして、無農薬での米作りを行い、環境と地域に貢献するRICE (Rural Investment in the Community and Environment) Projectを実施しました。このプロジェクトは、水源地再生、生物多様性保全のみならず、地域や地場産業の活性化、環境教育の場の提供、地域人材の育成など、多方面への波及効果が期待できる価値創造型の取り組みになっています。業務委託費6,520,000円で下記の事業を実施しました。

1. 業務内容

- (1) 棚田・谷津田の維持管理、生物調査
- (2) 子どもたちへの環境教育
- (3) 棚田・谷津田での米作り(田起し、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、餅づくり、日本酒醸造)
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2011年度は鹿嶋市山之上において2回、潮来市清水において4回の個別プログラムを実施しました。(参加者数)

| | | | | |
|--------|-------------|-----|-------|------|
| 鹿嶋市山之上 | 稲刈り (5/15) | 15名 | 参加者合計 | 54名 |
| | もちつき (1/29) | 39名 | | |
| 潮来市清水 | 田植え (6/4) | 57名 | 参加者合計 | 198名 |
| | 草取り (7/23) | 61名 | | |
| | 稲刈り (10/29) | 41名 | | |
| | 蔵出し (1/29) | 39名 | | |

○ 「UBSの森 霞ヶ浦水源の森づくり」UBS証券会社・牛久市との協働事業
(UBS証券会社の寄付による牛久市委託 2009年度から継続)

里山の再生は、霞ヶ浦流域の水源地の保全・再生を図る上で、重要な役割をもっています。水源地である谷津田の周りには林があり、林はその水源を涵養する機能を持っています。このような本来の里山づくりを行うことを目的に、牛久市において霞ヶ浦水源の森づくりを行いました。この取り組みは、水源地の保全・再生、里山の原風景の再生、生物多様性保全、地域の活性化、環境教育の場の提供、地球温暖化防止など都市と農村をつなぐ新しい循環型のモデル事業となっています。

この事業はUBS証券会社が牛久市に寄付(ふるさと納税制度を利用)し、牛久市がアサザ基金に委託するかたちで実施されました。業務委託費330,000円で下記の業務を実施しました。

1. 業務内容

- (1) 植生・生物調査
- (2) 植栽維持管理

2. 事業報告

植生・生物調査 各1回

植栽維持管理 草刈り(全面1回、樹木回り2回)、施肥3回

○ UBS Forest Honey プロジェクト

(UBS 証券株式会社の寄付による事業 2010 年度から継続)

UBS 証券株式会社の寄付により里山の再生を行っている「UBS の森」において、ニホンミツバチが広がっていく環境づくりを進めています。2012 年 4 月に導入したニホンミツバチは、毎月異なる味や香りの蜜を作り出しています。今年度は、UBS の森を拠点とする周辺地域を巻き込んだ生物多様性保全や森と人々との交流、農村と都市との交流を創出するために、社員家族によるミツバチの巣箱管理、里山整備を行いました。今年度の活動費用として 1,087,795 円を寄付金から充てました。

1. 業務内容

- (1) 採蜜・里山整備イベントの実施
- (2) 植生調査／生物調査

2. 事業報告

UBS 証券株式会社社員及び家族による採蜜・野草の植え付けや里山の整備を行うイベントを実施しました。

- ・採蜜・里山整備イベント(2011 年 10 月 17 日実施) 参加者 28 名

○ ホギメディカル谷津田再生プロジェクト ホギメディカル・牛久市との協働事業 (株)ホギメディカル委託 2009 年度から継続)

霞ヶ浦流域に広く分布する水源地「谷津田」の荒廃が大きな問題となっているなか、牛久市のホギメディカル筑波工場に隣接する荒れてしまった谷津田を新たな価値を作り出しながら再生し、昔ながらの田んぼづくり、谷津田の管理を行っていく谷津田再生プロジェクトを実施しました。水源地「谷津田」のシンボルの一つとなっているホテルを課題解決の指標として、健全な水循環の復活、地域文化の振興、牛久の原風景の保全、自然生態系の再生・保全に取り組んでいます。

業務委託費 7,160,000 円で下記の事業を実施しました。

1. 業務内容

- (1) ホギメディカルの役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) 谷津田における維持管理、基盤整備、生物調査、米作りの業務
- (3) 個別プログラムの実施
- (4) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2011 年度は 5 回の個別プログラムを実施しました。(純参加者数)

| | | |
|------|-----------------|------|
| 全社行事 | 田植え・自然観察(5/28) | 127名 |
| | 草取り・自然観察(7/30) | 43名 |
| | 稲刈り・自然観察(10/22) | 50名 |
| | 地酒仕込み(2/11) | 41名 |
| | 新酒蔵出し(3/24) | 38名 |
| | 参加者合計 | 299名 |

○ 緊急雇用対策としての谷津田再生事業 (牛久市委託 2009 年度から 2011 年 3 月)

ホギメディカル谷津田再生プロジェクトと連動し、牛久市のホギメディカル筑波工場に隣

接する荒れてしまった谷津田において、自然と共生するまちづくりのモデルとして谷津田の再生と環境の保全をはかるとともに、新しい農業の在り方を探ることを目的に、谷津田再生事業を実施しました。

また、本事業は離職を余儀なくされた非正規労働者、中高年齢者等の失業者に対して、次の雇用までの短期の雇用・就業機会を創出・提供する等の目的で国が交付する補助金により実施されました。業務委託費として7,618,800円いただきました。

1. 業務内容

- (1) 水田の復元(除草、耕運、くろぬり、代掻き、除根等)及び管理
- (2) 草刈等管理、水路補修及び生物調査

2. 事業報告

2011年度は合計10名の従事者(緊急雇用者)により、週3回ペースで水田の復田作業等の業務を実施しました。

対象面積：約10,000㎡

復田面積：約1,200㎡

○ 霞ヶ浦・北浦の水源地となる里山の保全事業

市民ボランティア「一日きこり」の実施(1997年度から継続)

霞ヶ浦・北浦に良質な水を供給するために、荒廃した谷津田や周辺森林の保全に努めています。下草刈りや間伐などの森林管理作業にボランティアを募り、2011年度は4回行いました。牛久市および潮来市で、アズマネザサなどの下草刈りを始め、除伐、森あそび、動植物観察などと多岐にわたる内容で実施しました。流域に広く分散分布する森林を広域的に管理するためのネットワークづくりの一環(種まき)として位置づけています。

一日きこり実施結果 2011/11~2012/3

| 実施場所 | 実施日 | 参加者 |
|-------|--------------|-----|
| 牛久市島田 | 2011. 11. 26 | 3 |
| 牛久市遠山 | 2011. 12. 17 | 7 |
| 牛久市遠山 | 2012. 2. 18 | 7 |
| 潮来市清水 | 2012. 3. 25 | 5 |
| 計 | 4回 | 22名 |

● 地域循環型社会構築に関わる事業

○ 森と湖と人と農をつなげるビジネスモデル事業 (2004年度から継続)

1. 事業の概要

霞ヶ浦では外来種問題が深刻な状況にあります。外来魚や未利用魚を漁業者から買い上げて魚粉化し、肥料や家畜の餌として農業に使用してもらい、生産された農産物はブランド化して販売するという、環境保全を組み込んだ地域活性化の事業を2004年に提案しました。

外来魚や未利用魚を捕獲することで、栄養塩類(チッソ及びリン)を効率的に回収し、湖沼水質の浄化を図ります。魚粉を農業の栄養素として利用することで、流域外から持ち込まれる肥料等の削減を図ります。生産した農作物は霞ヶ浦流域のブランド(湖がよるこぶ野菜たち)として販売、消費者は野菜を手にとることで湖・地域への環境意識が啓発されます。この事業が自立して軌道に乗れば、在来魚の豊富な湖と生物多様性、人々と湖の絆を取り戻すことができると期待されます。

本事業は物質エネルギーの循環を実現するだけでなく、生物多様性保全を流通システム、

ひいては社会システムに組み込んでいくモデルとなる事業です。本事業の継続によって、流域の活性化と湖の再生をより進めていくことに寄与します。

2. 事業報告

今年度も環境パートナーシップ市民事業の事務局として業務を行いました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災とその後の原発事故による放射能汚染問題で外来魚の水揚げは実施できませんでした。そのため2010年度に水揚げした外来魚の魚粉を活用してこの事業を継続させました。

◆2011年度 外来魚水揚げ・魚粉化状況

2010年12月と2011年1月に水揚げした30tの外来魚が2011年7月に魚粉となりました。魚粉化は成田市の中央飼料(株)に依頼し、出来上がった魚粉は5400kgでした。できた魚粉は環境パートナーシップ会員を主体に頒布しました。今後、より一層の魚粉の使用先を開拓していく必要があります。

2005年からトータルで、窒素10220kg、リン2854kgを湖から回収することができました。

◆助成金の収支

8月に魚粉加工賃を支払いました。魚粉利用協力費から充てています。

◆流域ブランド「湖がよろこぶ野菜たち」

今年度もJA やさとの「きゅうり」は通年でカスミ(株)の21店舗で販売。季節毎にソラマメ、キヌサヤ、ブロッコリー、ゴボウなどがカップちゃんシールをつけて出荷されました。さらに多くの品目をそろえ、コーナー化を図っていく計画です。

○「人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築」

キャノンマーケティングジャパン株式会社協働事業(2009年度から3年目)

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、霞ヶ浦の自然再生・活性化事業によってできる材料を活用したせんべいづくりに福祉作業所に参画いただくなど、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めてきました。実際に畑での活動は2年目を終えた所で、今年度は3回のプログラムを実施し、73名の参加をいただきました。油糧作物としてヒマワリ栽培から菜の花栽培へと移行しました。

プロジェクト運営費とプログラム開催費用として1,751,980円を支援いただきました。

第1回プログラム ヒマワリの播種 6月

第2回プログラム ヒマワリの収穫とアサザの植え付け 9月

第3回プログラム 菜の花種まきと里山整備 10月

○ 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 美浦工場が取り組む

花畑プロジェクトへの協力

日本テキサス・インスツルメンツ美浦工場では近接地にある耕作放棄地を再生し、霞ヶ浦の外来魚でできた魚粉を活用し、花畑を作り、その成果を活用して地域貢献・環境保全を行っていくプロジェクトが立ち上がりました。アサザ基金はその取り組みに賛同、協力しています。6月には社員ボランティアとヒマワリの種蒔きから始め、8月末には収穫し、搾油しました。今年度に関しては取れた油を提供いただき、前述のおせんべいに活用させていただきます。

○ 「廃食用油バイオディーゼル燃料化事業」(2009年～2012年3月)

牛久市バイオマスタウン構想の一環として、茨城県の緊急雇用対策事業の一つである「ふるさと雇用再生事業」を牛久市から受託し、バイオディーゼル燃料の製造、原料となる廃食用油回収などを牛久クリーンセンター敷地内で事業を進めました。人材はハローワークを通して失業中の2名を新規雇用しました。これまでに生産されたバイオディーゼル燃料は牛久市の公用車、ゴミ収集車、㈱カスミの商品配送車、関東鉄道株式会社の路線バスなどで使用しました。

業務委託費 9,275,675 円を人件費と業務運営費に充てました。

1. 業務内容

- ①牛久市内、龍ヶ崎市内、稲敷市内、阿見町内の廃食用油回収拠点での廃油の回収
- ②回収した廃油を使用しバイオディーゼル燃料の製造
- ③製造したバイオディーゼル燃料を協力機関へ提供

● 複数の助成にかかわる事業など

○ 「アサザプロジェクト～環境を機に活性化する地域社会」

(三井物産環境基金助成事業 2009年10月～2012年9月)

三井物産環境基金より2008年度に引き続き、アサザプロジェクトの活動の多くの部分について助成をいただいています。より多様な主体を巻き込んで、実社会に環境保全・再生機能を組み込んでいくこと、また、活動範囲を流域に限定することで“100年後、トキが舞う霞ヶ浦”の実現をより確かなものとすることを目指します。

1. 事業報告

(1) “生きものと共生するまちづくり”学習プログラムの流域展開に関して

牛久で行ったまちづくり学習をモデルに、流域へ応用していくこととして助成をいただいています。実施内容については前出のとおりです。

(2) 地産地消による地場産業の活性化と循環型社会構築に関して

湖が喜ぶ野菜たち、広がれあさぎの夢など環境保全を機にブランド化を進める取り組みについてご支援いただいています。実施内容については他の項目で報告しているとおりです。

(3) “天然ウナギ”復活に向けた政策提言と流域内の合意形成に関して

昨年7月にウナギシンポジウムを開催し、逆水門柔軟運用の実現に向けた市民運動としての第一歩を進め、その機運を高めることができました。政策提言を作るための調査費用にも活用しました。

助成金の内 6,871,590 円を上記の活動経費に充て、2,996,208 円を2012年度に繰り越しました。

○ 原宿表参道・森の恵み・森の風プロジェクト(2009年度より継続)

原宿・表参道という大都市の中に、明治神宮の森から広がる自然の恵みを活かしたまちづくりを行い、脱温暖化や生物多様性保全に創造的に取り組む事業として、今年度は、一般参加者を対象とした「風船ウォーク」や「風船トーク」のイベントを行いました。また、昨年度に引き続き、神宮前小学校の夏季特別講座において、表参道界隈や明治神宮、代々木公園の野外観察を行いました。

さらに今年度は、沖縄県宮古島、多良間島と原宿表参道を生き物や文化の道でつなぐプロジェクトへと発展させました。大都市と離島という異なる地域を結ぶ自然のつながり(生きものの道・風の道)の存在に人々が気づき、異なる地域間での交流を通じてそれぞれに地域固有の価値「自然の叡智」を浮上させるため、下記業務を実施しました。

- ・ グランドワークインターンシップから OJT 研修生 3 名を受け入れ、各 5 日間カリキュラムにそった様々な活動を体験していただきました。

● その他の事業

○ アサザプロジェクトオリジナル地酒「広がれあさざの夢」の流域ブランド化をすすめました！

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、アサザプロジェクトのオリジナル酒「広がれあさざの夢」が 2 つの酒蔵店（白菊酒造<石岡>、田中酒造<取手>）で製造、茨城県内カスミ 12 店舗やジャスコ土浦店で販売されています。（2008 年 12 月～）引き続き霞ヶ浦ブランドとしての定着を図るとともに、茨城全体のブランド力の強化も目指していきます。茨城県のアンテナショップ、銀座にある黄門マルシェでも販売されています。

○ 湖がよろこぶ煎餅プロジェクト

霞ヶ浦再生ブランドの煎餅を、大形屋商店さんと協働開発を始めました。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的としています。煎餅の原料には密漁をしない漁師から仕入れたざざえびと水源地谷津田を再生し流域の協力者が生産した無農薬栽培米の米粉を使用しました。1 袋 500 円で大形屋商店、ポケットファームどきどき牛久、茨城空港などで販売しました。生産には福祉作業所にもご協力をいただき、自然再生、福祉への貢献と様々な効果を生み出しました。

霞ヶ浦の再生、ブランド化を進めていく事業展開の中で、より多くの方と協働する場が生まれていく事業です。企業との協働も進めながら、より一層のブランド化を図ります。

○ トンボのスケッチ会

8 月 5 日に、牛久市立神谷小学校に隣接するカワセミの郷（児童の提案によって再生が実現した霞ヶ浦水源地）にて、恒例のトンボスケッチ会を行いました。参加者は 12 名。茨城トンボ倶楽部様から飲み物をご提供いただきました。

○ 会報の発行

会報「あさざだより」を 2011 年 8 月、2011 年 12 月、2012 年 3 月の 3 回発行し、会員の皆様や関係団体、諸機関などに配布しました。（発行部数/毎号 約 1200 部）

○ ホームページ運営

各イベントの案内や最新情報を、会員や参加者向けに発信しました。また、2012 年 2 月より、特定非営利活動法人サービスグラントの支援を受け、スキルを持ったボランティアチームによるホームページのリニューアルプロジェクトを開始しました。

○ 講演、視察研修の受け入れ

2011 年度は沖縄県関係者の視察 4 団体を含む 10 団体 137 名を受け入れました。また全国各地で開催されるシンポジウムや講演会、大学の講義などに代表理事の飯島や顧問の牧が講演者やパネラー、講師として 22 回出席し、アサザプロジェクトの紹介に努めました。

○ 霞ヶ浦ゆめ基金へのご寄付をありがとうございました。

2011 年度は総額 53,200 円のご寄付をいただきました。これらは、霞ヶ浦流域の環境学習に活用させていただき、265 名の子ども達に出前授業を提供することが出来ました。今後ともご支援、ご協力を宜しくお願い致します。